

ICTを活用した調剤情報システム（お薬ネット）の取組み（長崎県五島市）

取組概要

「お薬ネット」(五島市調剤情報共有システム)とは、全市民を対象として調剤薬局での「薬歴情報」と市が収集した在宅高齢者の「見守り情報」を一元管理し、これを中核病院である五島中央病院、市内の全調剤薬局、消防(救急搬送)等で共有しながら重複薬剤のチェックや救急時の迅速対応など医療・福祉サービス向上を図ることを目的としている。また、このシステムによりインフルエンザ薬処方状況を毎日確認できるなど、流行時期での早期予防策においても効果が現れている。
 今後は、長崎県の医療情報共有システム「あじさいネット」との連携を構築するなど広域的なネットワークへの拡充を予定している。

取組の効果

本システムにより、調剤薬局では重複薬剤や禁忌投与を避ける薬剤のチェックが簡単・適切指導ができること。病院等は救急外来の際の服薬確認が迅速にでき他機関での処方内容を把握しやすいなどの効果がある。
 また、薬の処方状況を把握できることから、インフルエンザ流行時期には、毎日インフルエンザ処方薬の医療機関(地域)ごとの投与状況を学校、幼稚園、介護など社会福祉施設等に情報提供して予防対策に活用している。

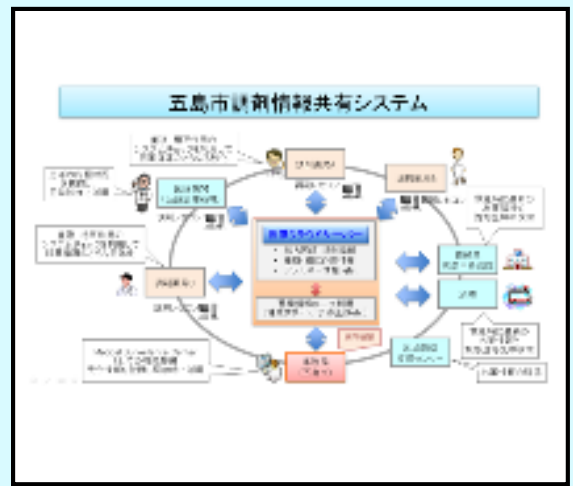
創意・工夫した点

本システムへの参加同意者であれば調剤薬局で処方薬を受け取る時にデータ入力完了する。お薬手帳を確認せずに服薬状況を確認でき重複投薬防止等に有効なシステムとした。システムは処方箋情報をクラウドサーバー上で一元管理するもので災害発生時の迅速支援や端末紛失時等の情報流出リスク低減に対応している。お薬ネットで得られる情報は、調剤薬局において副作用を防ぐなどより適切な服薬指導ができること。医療機関での調剤情報活用は安心・安全な医療に繋がること。救急搬送時の的確な処置及び治療に繋がられるようにした。

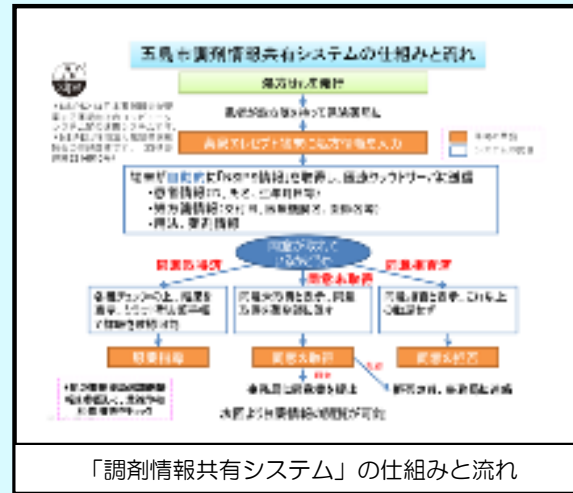
他団体へのアドバイス

本システムは、薬の処方状況を把握できることから、インフルエンザ流行時期には、毎日インフルエンザ処方薬の投与状況を学校、幼稚園などに情報提供して予防対策に活用しており、他地域よりもインフルエンザ発症が抑制されているなど流行対策での有効性も確認できている。

人口 37,693人(H30.1.1現在)
 担当 国保健康政策課



「調剤情報共有システム」のイメージ



「調剤情報共有システム」の仕組みと流れ